



難民は「かわいそうな人々」か

立命館大学国際平和ミュージアム 第131回ミニ企画展示 パネル・写真展

Us ~学生が見た ロヒンギヤ~



新型コロナウイルス感染症対策のため、ご来館の皆様にご協力をお願いいたします

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、今後の展示・企画を急遽延期もしくは中止させていただく可能性がございます

詳細はHPやTwitterにてご確認ください

上：カヌーに向けて、ボーズを渡る少年たち（ラカイン州、ミャンマー）
下：約100万人が暮らす難民キャンプ（ロヒンギヤ）



市バス12-15-30-51-52-55-59-M1、JRバスにて「立命館大学前」下車、徒歩5分 市バス204-205にて「わら天神前」下車、徒歩10分 ※駐車場はありませんのでお車でのご来館はご遠慮ください

2020. 11.2-11.26
MON THU

2F常設展示室内
10:00~12:00
13:00~15:00

見学資料費

大人 420円
中学生 300円
小学生 200円

※ 地割受付もしくは、特別受付で
見学資料費をお支払いください
※ 立命館で学ぶ人・働く人は無料です

休館日
日曜日、11/4(水)、11/24(火)

※開館時間は変更することがございます
HP等でご確認ください

〒603-8577
京都市北区等持院北側56-1
TEL 075-465-8151 FAX 075-465-7899
URL <https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>



立命館大学
国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University



難民キャンプ(船着場)からの主夫＝バングラデシュ



難民キャンプの商店で店員をする少女＝バングラデシュ



私は7万人を売りに出されたマレーシア

「今世紀最大の人道危機」といわれるロヒンギャ問題。バングラデシュ＝ミャンマー国境では、今でも約100万人のロヒンギャが難民キャンプに暮らし、国際援助で命を繋いでいます。一方で日本にも、庇護を求めて来るロヒンギャがいます。

「難民問題は遠い国の出来事ではない」
 そうした思いから、2人の学生記者が計4カ国を取材し、ロヒンギャ問題の「今」を伝えます。

鶴 端人/城内丈佑



難民キャンプの学校の前から顔を覗かせる少年＝バングラデシュ



患者の看病に追われる母＝ラカイン州、ミャンマー

写真とパネル展示

迫害下で生きる人々

迫害に苦しみながら、ミャンマーで暮らす

ナフ川を越えて

故郷を逃れ、バングラデシュの難民キャンプで命を繋ぐ

故郷は遠くにおいて

マレーシア・日本といった第三国で生きる

懸念の向こうに

ロヒンギャとラカイン族、対立する2つの民族の関係

ロヒンギャ

Rohingya

ミャンマー西部・ラカイン州に住むイスラム教徒。ミャンマー政府は、ロヒンギャをベンガル地域からの「不法移民」とみなして、多くのロヒンギャには国籍が付与されていない。

現地住民である仏教徒・ラカイン族との争いがあり、2017年8月の大規模なロヒンギャ迫害では、およそ70万人が隣国・バングラデシュに逃れた。